

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース  
／中津 郁子

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

専門分野である臨床心理学や子育て支援の立場から考えると、教師を目指す学生に子どもの心と親の心の理解やその関係性を考え深められるような授業を行ないたいと考える。現在、学校現場ではいじめや不登校、虐待などの親子の不適切な関係、など様々な問題が見られる。そのような問題の理解と対応に必要なことと考える。

そのために、知識のみでなく、子どもや親との関係性を築く力を養うために、聴く力や感受性、共感性を磨くこと、コミュニケーション力などが育成されるような授業を行ないたい。実践を通しての体験的な知となるようにしたり、小グループでの演習を行なったりしていきたい。

## 2. 点検・評価

目標に掲げた、子どもの心と親の心の理解や関係性を考えていける授業については工夫できたと考えられる。小集団で活発に意見が出せるような配慮を行なったり、イメージしやすい授業を心がけた。また、実習では、実習方法や形態を工夫することで、親との話し合いの場を持つなど、実践の場での体験が深まった。体験の深まりから、実習後の話し合いを充実させることもできた。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

1. 学生の主体性・積極性を引き出すように、小集団での演習や話し合い等を授業に取り入れること、実習では、自主的・主体的な取り組みを尊重し、個々の特徴や課題が明確になるようにすることは継続して行なっていきたい。
2. 学生の悩み等には随時応じるとともに、自分の適性を知り将来の職業選択について考えていけるように指導していきたい。
3. 地域臨床の場に参加し、体験知を深め、実践力をつけるために、様々な場の確保・提供に努める。
4. 心理職を目指す大学院生の就職場所の確保に努める。

## **2. 点検・評価**

目標に掲げたことは一応達成できた。特に、地域臨床として保育園での実習を充実させ、保育園や保護者にも意義のある実習となり、学生にとっては有意義な学びになった。  
学生の悩みや就職に関する相談にも、随時応じた。学生が自分の将来を見据えながら就職先を選択できるように、情報を提供しながら共に考えた。また、就職先の確保や学生への提供にも努めた。

## **Ⅱ-2. 研究**

### **1. 目標・計画**

1. 心理士としての基礎的な力を養うために行なっている大学院生の保育実習をさらに充実させ、臨床的な視点を養うことができるように、保育園と連携して研究を続けていきたい。  
2. 「幼稚園でのプレイセラピー実践」が地域での子育て支援となるための研究をさらに継続するとともに昨年度のまとめを行い学会誌に投稿していきたい。

## **2. 点検・評価**

1. 保育実習に関しては、実習生と保育士さんや保護者の方とも話し合いの機会を持つことができ、それぞれにとって有意義な時間となった。また、保護者の方に質問紙調査を行いそれがどのような意義があったかを検討している。  
2. 「幼稚園でのプレイセラピー実践」に巻いては大学紀要に投稿した。また、それとは別に学会誌に投稿していた論文(共著)は1月に掲載された。  
また、大学相談室の紀要にも投稿(共著)した。

## **Ⅱ-3. 大学運営**

### **1. 目標・計画**

1. 大学院教務委員会と就職支援委員を継続して行なっていきたい。  
2. 大学相談室の相談員として、相談室運営と改善に取り組んでいきたい。

## **2. 点検・評価**

1. 大学院教務委員会と就職支援委員会の仕事を務めた。  
2. 心理・教育相談室の相談員として、来談者の相談にあると共に、室長として相談室の運営と改善に取り組んだり、院生の指導に務めたりした。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

1. 今年度も、県や市の子育て支援関係会議の委員を引き受けて、地域社会に力を尽くしたい。
2. 子育てに関する講演会を引き受けたり、講習会を計画したりして子育て家庭の支援を行いたい。
3. 子育て支援センターの相談員や幼稚園の子育て相談員として、親子の話を聴き、子育て支援に役立ちたい。

### 2. 点検・評価

中間報告と同様、目標としたことは達成できた。  
今年度は、毎年行なってきた連続でのペアレントトレーニングは行なわなかったが、次年度は行なう予定にしている。  
また、教育支援アドバイザー講師での派遣に6～7回行った。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

地域の協議会の委員や、教育支援講師として幼稚園等に出かけるなど、社会貢献に努めた。  
大学院教務委員や就職委員、心理・教育相談室の室長として、大学運営に関わった。